

建設トップランナーフォーラム  
アグリビジネス分科会

テーマ「マーケットインからの建設帰農」

農業参入へ事例発表



建設トップランナーフォーラム

(代表幹事・和田章東京工業大学教授)のアグリビジネス分科会(座長・渋谷往男三菱総合研究所主任研究員)が15日、港区のTKP田町ビジネスセンターで開かれた。「マーケットインからの建設帰農」をテーマに、国土交通省、農林

全国から集まった約90人が聴講

水産省、経済産業省の2008年度の施策紹介のほか、農業参入の事例発表、特別講演などが行われ、全国から集った約90人が聴講した。

このフォーラムの顧問を務める慶應義塾大学の米田雅子教授は、あいさつの中で地域建設企業の衰退ぶりを紹介。「建設業だけでは生き残りは難しい。農業への進出事業は自立型モデルの一つとして定着しつつある」と述べた上で、建設業の農

業進出を成功させるためにはマーケットイン(販路確保)の発想や農商工連携が重要との考えを示した。

事例発表では、「農業参入5年目の過去・現在・未来」と題して大建工業(福島県)の遠藤広社長が講演し、農業参入を決意せざるを得なかった地方建設業の窮状を紹介。「(地方建設業は)絶対絶命であるという危機意識が、今を支えている」と厳しい現状を指摘した。その上で、5年後の作付計画、利益目標を示し、建設業と農業の両輪で地域に貢献していく方針を述べた。

り組みについて(地域との連携)」、「ジッピーエスの濱口廣孝氏が「パルシステム(組合員の暮らしに対応できる仕組み作り)の環境保全型農業推進と産直」と題して講演した。

野口氏は、高速道路事業者が地元営農者を巻き込んで行う生鮮品の販売スキームを説明した。その中で、「鮮度の高い地元生鮮品を低価格で販売展開することがポイント」と指摘。「高速道路利用者」と地元営農者、西日本高速道路事業者の3者が共にメリットのある運営をすることが成功する鍵」と述べた。

との提携)などについて紹介した。その上で、「農業も本業」と位置付け、中長期的な計画を実施していく中で、既存の農業の枠を超えようとする新しい技術開発、生産手法を生み出してほしい」と、建設業からの参入にエールを送った。

当日は、国土交通省建設市場整備課の芳本竜一課長補佐、農水省構造改善課の大山文郎課長補佐、経産省地域経済産業政策課の横田俊之課長が08年度の施策を説明した。

また、事例発表者、特別講演者のほか、島根県農林水産部農業経営課の永岡佳訓氏を交えたパネルディスカッションも行われた。

この後の特別講演では、西日本高速道路の野口和也氏が「高速道路における農産物販売への取り組み」 「産地・生産者